証券コード：4554

第48期 報告書

Fuji Pharma IR Report

2011年10月1日から2012年9月30日まで

株主・投資家の
皆様へ

FujiPharma

FujiPharma

経営理念

優れた医薬品を通じて、人々の健やかな生活に貢献する

人々の生命に関与する誇り、人々に尽くす喜びと幸せ、
人々へのありがたい・感謝の気持ちを大切にしています。

富士製薬工業の成長はわたしたちの成長に正比例する

会社活動を通じて、人間的な成長、リーダーの育成、
自己成長機会の充実に努めています。

当社は、ジェネリック医薬品を中心とした医療用医薬品の開発・製造・販売を行っており「急性期医療」と「女性医療」の分野に注力しております。

中長期のビジョンとして、急性期医療事業の拡大、 女性医療のリーディング・カンパニーの実現、研究開発を軸とした事業体制の構築、海外での事業展開などを目指しております。

女性医療分野

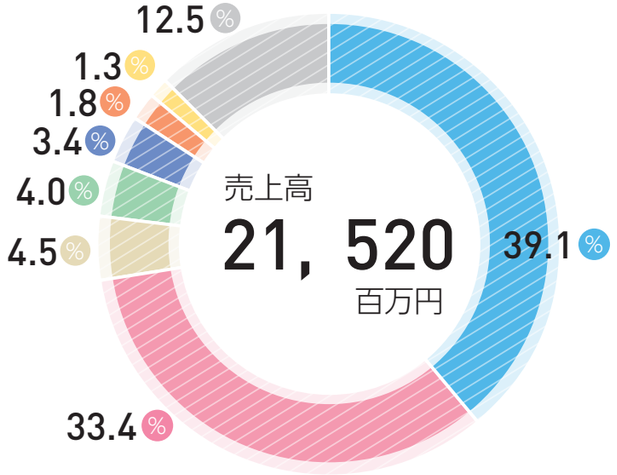
主要製品

不妊症治療薬

月経困難症治療薬

体外診断用医薬品

産婦人科領域を中心とする女性医療は、当社が古くから注力している事業分野であり、医療領域別売上高構成比は32.1％を占めます。排卵障害や体外受精のための排卵誘発に使用される不妊治療ホルモン剤やホルモン診断キット、感染症診断キットなどをお届けしております。女性のこころとからだをトータルサポートするべく、これからも医薬品の開発・製造・安定供給に尽くし、女性医療分野のリーディング・カンパニーを目指してまいります。



医薬品の製品　群別売上高

- 診断用薬
- ホルモン剤
- 循環器官用薬
- 体外診断用医薬品
- 抗生物質及び化学療法剤
- 泌尿･生殖器官系用薬
- 外皮用薬
- その他

急性期医療分野

急性期とは、主に病気のなり始めで急激に健康が失われる時期、つまり症状の比較的激しい時期を指します。この時に行う医療措置が急性期医療で、当社が特化している事業分野であり、医療領域別売上高構成比は59.5％を占めます。注射剤をメインとした製品構成となっており､主力製品はＸ線･CT画像撮影に必要な尿路･血管造影剤です。

主要製品

非イオン性　尿路･血管造影剤

イオン･非イオン性MRI用造影剤

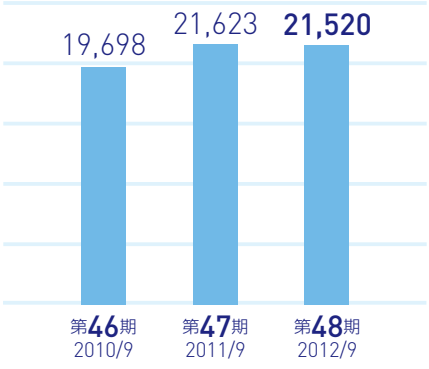
主力のホルモン剤は堅調に推移しましたが、診断用薬は薬価改定の影響を受け、減収となりました。

売上高
21,520百万円
（前期比0.5％減↓）

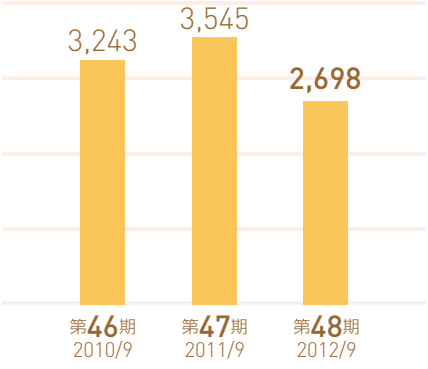
経常利益
2,698百万円
（前期比23.9％減↓）

当期純利益
1,370百万円
（前期比37.8％減↓）

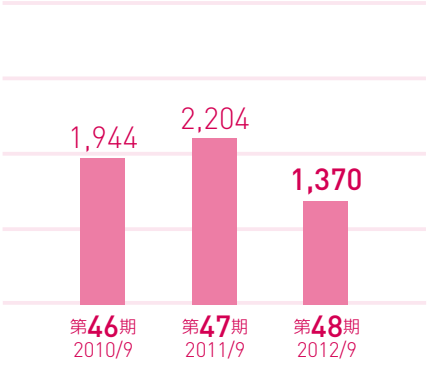
（単位:百万円）



（単位:百万円）



（単位:百万円）



売上高について

主力のホルモン剤は前期比7.2％増と堅調に推移した一方、診断用薬は同6.2％減となり、売上高全体では同0.5％の減収となりました。特に上期において、2012年4月の薬価改定を控えた買い控え等の影響を受け、売上高が期初予想を下回りましたが、下期以降は主力の診断用薬を中心に緩やかに回復しております。

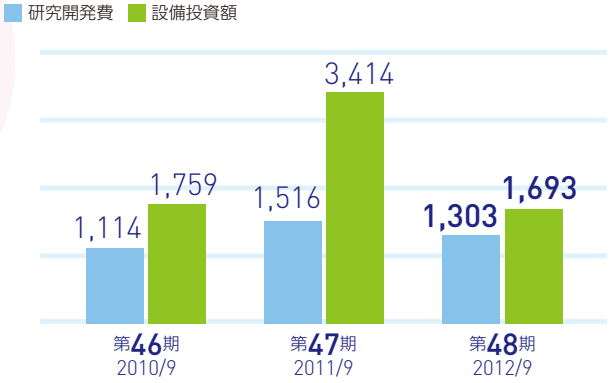
薬価改定につきましては、業界平均で約6.0％の引き下げとなりましたが、当社製品・商品の薬価引き下げによる影響は7.7％でした。

収益について

売上数量が伸び悩む中で、前期に稼働した新注射剤工場（第5製剤棟）の減価償却費等の固定費が増加したことにより、売上原価率が上昇しました。販売費及び一般管理費につきましては、計画を下回りましたが、売上原価率の上昇を補うまでに至っておりません。また、当社の中期的な人員計画等を勘案した結果、従業員規模が今後も拡大することが見込まれること等から、期初より、退職給付債務の計算方法を簡便法から原則法に変更した結果、退職給付債務の増加額364百万円を特別損失に計上いたしました。

研究開発費/設備投資額

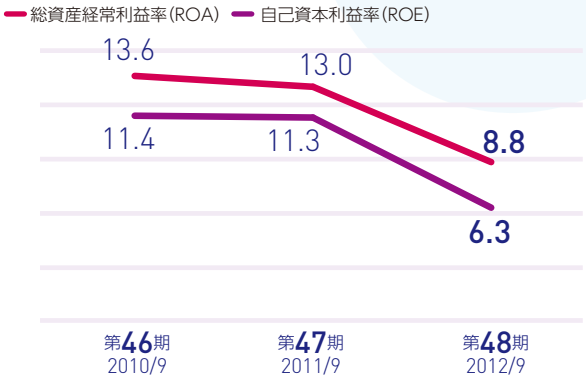
(単位:百万円)



研究開発費につきましては、産婦人科系製剤、抗がん剤のジェネリック医薬品の開発を推進しており、当期は1,303百万円を投入いたしました。設備投資につきましては、新注射剤工場(第5製剤棟)の第Ⅱ期工事1,078百万円を中心に、総額1,693百万円の設備投資を行っております。

ROA/ROE

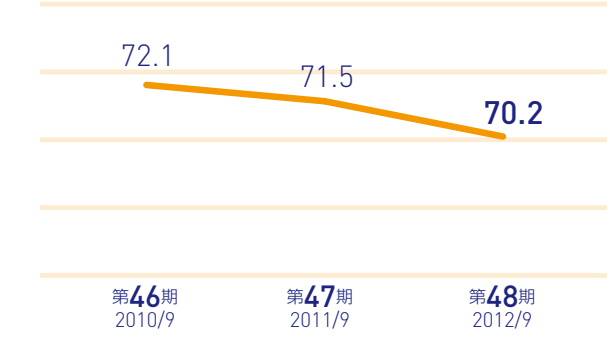
(単位:%)



前期末と比べ、総資産は1,713百万円増の31,471百万円、株主資本は834百万円増の22,098百万円となった一方、各利益が前期に比べ減少したことにより、ROA、ROEともに低下いたしました。

自己資本比率

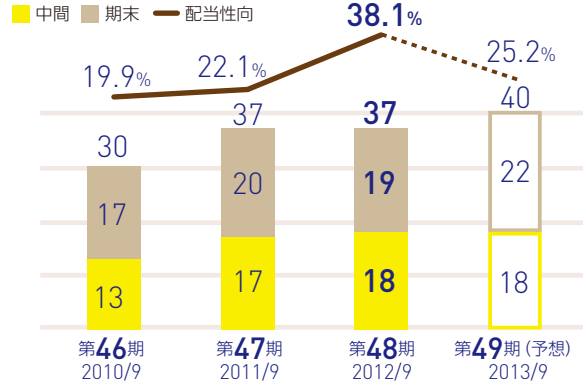
(単位:%)



自己資本比率は対前期比1.3%減の70.2%となりました。

1株当たり配当金/配当性向

(単位:円/%)



当期は、当初計画通り、中間18円/株に加え、期末19円/株(年間37円/株、配当性向38.1%)となりました。次期につきましては、業績予想ならびに今後の事業の展開等を総合的に勘案し、年間40円(中間18円/株、期末22円/株)を予定しております。

2012年7月11日、当社は東証第一部に上場いたしました。

大きな変化の時である今こそ、当社「らしさ」にこだわり、独自性のある事業展開を進めてまいります。

代表取締役社長
今井博文

Q:市場環境と当期(12/9月期)の業績概要についてお聞かせください。

A:コスト競争の激化はあるものの、ジェネリック医薬品(後発医薬品)市場は拡大傾向にあります。

ジェネリック医薬品市場においても、知名度のある新薬メーカーが優位にあると思います。加えて、海外大手のジェネリック医薬品メーカーの参入などもあり、国内ジェネリック医薬品市場では、従来以上にコスト競争が激化しています。このような競争環境を生き抜くためには、新薬メーカーにも負けない当社の強みをさらに伸ばすとともに、海外生産を含めたグローバル化の推進が不可欠だと考えております。

そのような中、当期の業績としては、薬価改定による買い控えや在庫調整による影響で、診断用薬を中心に売上高が減少し、また減価償却費などの固定費が増加し、利益面においても減益となりました。ただし、今年度の診療報酬改定にもジェネリック医薬品の使用促進策が盛り込まれており、市場は、引き続き拡大していくものと考えております。

Q:色々なイベントがあった1年でしたが、レビューをお願いします。

A:経営課題に本格的に取り組み、大きく前進できた1年でした。

経営的には、課題であった既存コア事業の拡大、そして次期につなぐ新規事業機会の具体化を実現できたという点で、大きく前進できた1年でした。

経営理念に掲げてありますとおり、当社は設立以来、「会社活動を通じて社員全員に成長してもらいたい、社員の成長があってこそ会社は成長し続けられる」という考え方のもとに事業を展開してまいりました。この考え方に立つと、経営者は意図的に新しい挑戦的なテーマを継続して投げ続けていかなければならないと考えています。当期実現した東証一部上場や第5製剤棟の立ち上げ、新薬の導入販売日本初のがん化学療法による好中球減少症の治療等に利用される生理活性蛋白質であるフィルグラスチム製剤のバイオ後続品、遺伝子組換えヒト顆粒球コロニー形成刺激因子(G-CSF)製剤の開発・承認取得、抗がん剤領域への参入などは、いずれもハードルが高いチャレンジでしたが、次期に向けた成長につながる貴重な経験となりました。

Q:次期(13/9月期)の主な取り組みについてお聞かせください。

A:『まじめ』な企業文化と徹底的なこだわりで、独自の事業展開を推進します。

当社の強みは、「付加価値が高い、独自の医薬品の仕事を通じて医療の現場でお役に立ちたい」との強い想いと、社員全員の高い当事者意識、その主体的な活動と成果を通じて根付いた『まじめ』な企業文化です。この強みを活かし、需要はあるものの、ハードルが高くて市場の開拓者がなかなか出てこないような領域に徹底的にこだわり、事業を展開していきたいと考えております。

今後の当社発展の鍵は、持田製薬株式会社と共同開発し本年11月21日に承認を取得したG-CSF製剤の成功にあると考えており、がん領域への取り組みを本格化するため、オンコロジー(がん)専任のマーケティング機能を整備いたしました。グローバル面では、本年10月1日付で子会社となりましたタイ最大の医薬品製造受託企業OLIC(Thailand)Limited社において、既存の製造受託事業を日本向けにも拡大するとともに、コスト競争力を高め、アジア市場をはじめとする世界へ当社製品の展開を図ってまいります。これらの新たな取り組みを通じ、次期は売上高、利益ともに大幅な改善を目指します。

2013年9月期 連結業績予想	
売上高	25,500百万円
営業利益	3,575百万円
経常利益	3,540百万円
当期純利益	2,190百万円

(注)2013年9月期より連結決算を開始するため、対前年増減率は記載しておりません。

Q:株主・投資家の皆様へメッセージをお願いいたします。

A:開発に対する執念を共有し、皆様のお役に立てる範囲を広げます。

当社にとって、新製品、技術、事業などの開発機能は生命線です。社員全員が医療の現場でお役に立てる当事者として、医療の現場・現物・現実と向き合い、新しく多様な価値を考え抜き、創り上げていくという開発に対する執念のような思いを共有する組織作りを強化し、「優れた医薬品を通じて、人々の健やかな生活に貢献する」という経営理念を実践することで、皆様のお役に立てる範囲を今まで以上に広げていきたいと考えております。大きな変化の時期にある当社を、今後ともご支援くださいますようお願い申し上げます。

貸借対照表

(単位：千円)

	当　期 2012年9月30日現在	前　期 2011年9月30日現在
(資産の部)		
流動資産	22,828,482	20,537,381
現金及び預金	5,170,819	4,755,373
受取手形及び売掛金	9,640,147	8,286,740
たな卸資産	6,610,867	5,255,436
その他	1,406,647	2,239,830
固定資産	8,642,800	9,220,196
有形固定資産	7,242,473	7,581,853
無形固定資産	718,243	1,027,719
投資その他の資産	682,083	610,622
資産合計	31,471,283	29,757,577
(負債の部)		
流動負債	8,034,628	7,588,743
固定負債	1,338,533	904,188
負債合計	9,373,162	8,492,931
(純資産の部)		
株主資本	22,098,868	21,264,494
資本金	2,447,418	2,447,418
資本剰余金	3,672,056	3,672,056
利益剰余金	15,979,472	15,145,099
自己株式	△ 79	△ 79
評価・換算差額等	△ 747	150
純資産合計	22,098,120	21,264,645
負債純資産合計	31,471,283	29,757,577

損益計算書

(単位：千円)

	当　期 2011年10月1日から 2012年9月30日まで	前　期 2010年10月1日から 2011年9月30日まで
売上高	21,520,418	21,623,813
売上原価	12,202,328	11,323,822
売上総利益	9,318,090	10,299,990
販売費及び一般管理費	6,571,510	6,734,212
営業利益	2,746,579	3,565,777
営業外収益	31,755	16,625
営業外費用	79,749	37,384
経常利益	2,698,585	3,545,018
特別利益	79,428	—
特別損失	452,170	48,157
税引前当期純利益	2,325,843	3,496,860
法人税、住民税及び事業税	1,028,469	1,363,198
法人税等調整額	△ 73,556	△ 71,183
当期純利益	1,370,930	2,204,846

キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	当　期 2011年10月1日から 2012年9月30日まで	前　期 2010年10月1日から 2011年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,171,679	1,954,075
投資活動によるキャッシュ・フロー	80,036	△ 2,288,710
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 835,935	2,497,594
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	415,780	2,162,959
現金及び現金同等物の期首残高	5,260,633	3,097,674
現金及び現金同等物の期末残高	5,676,414	5,260,633

詳細な財務情報は、
当社ホームページ　株主・投資家情報の
IRライブラリをご覧ください。

富士製薬工業IR　検索

アドレスはこちら▼
http://www.fujipharma.jp/ir/library/index.html

OLIC (Thailand) Limited を子会社化

当社は、本年8月3日の譲渡契約に基づき、本年10月1日付で、タイ最大の医薬品製造受託企業であるOLIC (Thailand) Limited（以下「OLIC社」）の株式99.91％を取得し、同社を当社の子会社といたしました。

OLIC社は、世界の大手製薬企業を中心に幅広い顧客層を持ち、これまで培ってきた製造ノウハウにより、高品質な製造受託メーカーとして、高い支持を受けております。

当社製品の製造を含む製造受託事業を更に拡大させるとともに、同社を拠点としてタイをはじめ東南アジアでの事業展開を本格的に推進してまいります。

会社概要	
名　　称	OLIC (Thailand) Limited
設　　立	1961年4月28日
売 上 高	1,066百万タイバーツ（約2,665百万円） 2011年12月期
事業内容	医薬品及び食料品の製造受託 35以上の多国籍の顧客に550品目以上の製品を供給
医 薬 品	経口剤、粉末剤、軟膏剤、注射剤など
食 料 品	ガム、砂糖など

東京証券取引所市場第一部へ上場

当社は、本年7月11日、東京証券取引所市場第二部より、同市場第一部指定銘柄に指定されました。株主の皆様をはじめ、関係者の方々に心より感謝申し上げます。

今後とも、当社の企業理念にある「貢献」と「成長」を実践し、一層の企業価値向上を目指してまいりますので、引き続きご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

更年期障害治療薬「ル・エストロジェル0.06％」の販売開始

株式会社資生堂が2007年8月より薬価基準未収載品として販売し、本年5月31日付で薬価基準収載されたホルモン補充療法（HRT）による更年期障害治療薬「ル・エストロジェル0.06％」を、同日より当社が販売することになりました。

薬価基準収載により、健康保険が適用されるため、患者様の負担が大きく低減されます。今後、HRTの普及を通じ、女性ホルモンの欠乏による心身の様々な不調と向き合う「メノポーズ世代」※を中心とした日本女性のニーズにお応えし、更なる医療貢献ができるよう、同社との協業活動を推進してまいります。

※「メノポーズ世代」とは、閉経（50歳前後）をはさんだ約10年間、女性ホルモンの欠乏による心身の様々な不調と向き合う世代の女性を指します。

ル・エストロジェル

1 富士製薬工業「らしさ」へのこだわりを支える研究開発・製造の現場とは？

医療の現場・現物・現実に向き合う研究開発強化の現場をご紹介します。

研究開発

研究開発真ん中化プロジェクトを通じ、独創的な開発体制が強化されています。

ジェネリック医薬品は、新薬の特許終了後に新薬と同じ有効成分、効き目、品質、安全性が同等な医薬品として、厚生労働省の承認を得て製造・販売される安価な医薬品であるため、医療現場での操作性などが差別化の重要なポイントとなります。当社は、造影剤や高活性のホルモン剤のジェネリック医薬品市場を開拓してきた過程で、素材、形状、大きさの違ったバイアル（薬品を入れる透明な栓のある容器）やシリンジ（注射筒）の多種多様な容器と薬剤の組み合わせについて、さまざまな製造工夫を積み上げてまいりました。

こういった当社「らしさ」を活かし、さらに強化するための取り組みとして、研究開発本部内にプロジェクトチームを設置し、組織や機能を連携させ、開発力の強化を図っております。さらに、研究開発部門が中心となり、開発品の検討段階からマーケティングや製造の各部門と活発な意見交換を行い、市場ニーズや原価低減を考えた開発を推進しております。

来年春には、COSSH*に準拠した新研究開発棟が始動します。

＊英国発の国際的労働安全基準

富山工場敷地内にある現研究開発棟は老朽化が進み、研究開発要員の増加により手狭になっていることから、現在、富山工場の近隣に地上3階の延べ床面積約2,900㎡の新研究開発棟を建設中です。当社は高活性の医薬品を扱っているため、研究開発の現場においても、ケミカルハザード（化学的薬害被害）への対応が重要になっております。

新研究開発棟は、COSSHに準拠したケミカルハザード対応の試作設備を有しており、新研究開発棟の稼働により、さらに研究開発の高度化やスピードアップを図ってまいります。

新研究開発棟

製　造

高活性の新注射剤工場（第5製剤棟）の製造現場をご紹介します。

第5製剤棟の稼働により、製造面での新たなチャレンジが始まっています。

第Ⅰ期工事（2011年10月稼働）では、20-150mLの樹脂シリンジ製剤や1-20mLのガラスシリンジ製剤といった、多様な容量の製剤製造が可能になりました。さらに、RABS（アクセスを制限するバリアシステム）を装備した樹脂シリンジ製剤一貫ライン（洗浄～乾燥～充填）や最先端のアイソレータを装備したガラスシリンジ製剤一貫ライン（洗浄～滅菌～充填）、ゴム栓洗浄・滅菌・乾燥装置などを導入し、品質の向上を図りました。

進行中の第Ⅱ期工事（2013年10月本稼働予定）では、抗がん剤などの高活性医薬品と一般医薬品が製造できる兼用ラインを導入します。最新技術であるアイソレータを装備し、秤量・調製～充填・巻締工程までの全工程で、作業を行う社員が高活性医薬品に直接触れることなく作業ができるようになります。

第5製剤棟は、無菌医薬品の製造や交差汚染防止といった基本的なコンセプトは従来と変わりませんが、無菌操作アイソレータや凍結乾燥入出庫工程の自動化を採用し、高度な無菌性保証の実現を図っていることに加え、作業員の安全といった産業衛生の観点からのリスク評価も行っております。

第5製剤棟建設プロジェクトを通じ、高い専門性を持つ外部の方々のスキルを取り込むことができました。また、実際の作業を行う社員は、それぞれの設備選定の理由や作業の背景をより強く意識できるようになりました。

第5製剤棟

会社概要 | 2012年10月1日現在 |

会社名	富士製薬工業株式会社(Fuji Pharma Co., Ltd.)
所在地	〒102-0075　東京都千代田区三番町5番地7
設立	1965年4月
資本金	24億4,741万円
社員数	574名
事業所	本　社：東京 支　店：東京、名古屋、大阪、福岡 営業所：札幌、仙台、富山 工　場：富山
海外グループ会社	OLIC (Thailand) Limited http://www.olic-thailand.com/
役員 (2012年12月20日現在)	代表取締役社長　今井　博文 常務取締役　広見　覚 取締役　上出　豊幸 取締役　三橋　厚弥 取締役　平山　健 取締役(社外)　小沢　伊弘 取締役(社外)　内田　正行 常勤監査役　徳永　賢一 監査役(社外)　三村　藤明 監査役(社外)　佐藤　明

株式の状況 | 2012年9月30日現在 |

発行可能株式総数	28,220,000株
発行済株式総数	14,120,000株
株主数	3,891名

大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
有限会社ＦＪＰ	2,141,000	15.16
今井　博文	2,025,000	14.34
三井物産株式会社	1,930,600	13.67
テルモ株式会社	643,500	4.56
新井　規子	620,000	4.39
BBH BOSTON-HEARTLAND VALUE FUND	500,000	3.54
今井　道子	423,000	3.00
RBC IST LONDON-CLIENTS ACCOUNT	326,500	2.31
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	295,600	2.09
富士製薬工業従業員持株会	219,290	1.55

(注) 持株比率は自己株式(67株)を控除して計算しております。

株主メモ

事業年度	毎年10月1日から翌年9月30日まで
定時株主総会	毎年12月開催
基準日	定時株主総会 毎年9月30日 期末配当金　毎年9月30日 中間配当金　毎年3月31日 そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日
公告掲載新聞	日本経済新聞
株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人 事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社　証券代行部 (郵便物送付先)　〒183-8701　東京都府中市日鋼町1番10 三井住友信託銀行株式会社　証券代行部 (電話照会先)　0120-176-417 **〈※平成25年1月より郵便物送付先・電話照会先が変更となります。〉** **(郵便物送付先)　〒168-0063　東京都杉並区和泉二丁目8番4号** **三井住友信託銀行株式会社　証券代行部** **(電話照会先)　0120-782-031** (インターネットホームページURL) http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html
上場証券取引所	株式会社東京証券取引所　市場第一部

●第48期期末配当金のお支払いについて

第48期期末配当金は、同封の「第48期期末配当金領収証」によりお支払いいたしますので、お近くのゆうちょ銀行全国本支店及び出張所並びに郵便局(銀行代理業者)で払渡期間内(2012年12月21日から2013年1月21日まで)にお受け取りください。なお、振込先をご指定の方には、「第48期期末配当金計算書」及び「配当金のお振込先について」を同封いたしますので、ご確認くださいますようお願い申し上げます(株式数比例配分方式を選択された場合の配当金のお振込先につきましては、お取引の口座管理機関(証券会社)へお問い合わせください)。

●上場株式配当等のお支払いに関する通知書について

租税特別措置法の2008年改正(2008年4月30日法律第23号)により、2009年1月以降に当社がお支払いする配当金について、配当金額や徴収税額等を記載した「支払通知書」を株主様宛にお送りしております(同封の「第48期期末配当金計算書」が、「支払通知書」を兼ねることになります)。なお、「支払通知書」は、株主様が確定申告をする際の添付資料としてご使用いただくことができます(株式数比例配分方式を選択されている場合は、お取引の口座管理機関(証券会社)へお問い合わせください)。

FujiPharma

富士製薬工業株式会社 Fuji Pharma Co., Ltd.

■ IRに関するお問い合わせ
本社／管理部　〒102-0075 東京都千代田区三番町5番地7 精糖会館6F
TEL：03-3556-3344　FAX：03-3556-4455
URL：http://www.fujipharma.jp/

FSC www.fsc.org ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C013080

VEGETABLE OIL INK